

**2024 年度 九州共立大学**  
**国際金融論 まとめのテスト 問題・解答用紙 (37 名)**

以下の設問について、解答を各解答欄〔 〕に記入しなさい。

**設問 A** 以下の問いの左右の為替レートを比較したときに、左のレートの方が右のレートよりも、円高ならば 1 を、円安ならば 2 を解答しなさい。

- 問 01.  $\$1=\text{¥}90$ 、 $\$1=\text{¥}100$  ⇒解答〔 1 〕  
問 02.  $\$1=\text{¥}90$ 、 $\$1=\text{¥}110$  ⇒解答〔 1 〕  
問 03.  $\$1=\text{¥}100$ 、 $\$1=\text{¥}80$  ⇒解答〔 2 〕  
問 04.  $\$30=\text{¥}2000$ 、 $\$40=\text{¥}2000$  ⇒解答〔 2 〕  
問 05.  $\$20=\text{¥}2000$ 、 $\$10=\text{¥}2000$  ⇒解答〔 1 〕  
問 06.  $\$20=\text{¥}2000$ 、 $\$15=\text{¥}1000$  ⇒解答〔 2 〕

**設問 B** 以下の設問に、数値で解答しなさい。

- 問 07.  $\$1=\text{RMB}10$ 、 $\$1=\text{¥}140$ 、のとき 1 人民元は何円か？ ⇒解答〔 14 〕  
問 08.  $\$1=\text{RMB}6$ 、 $\$1=\text{¥}180$ 、のとき 1 人民元は何円か？ ⇒解答〔 30 〕  
問 09.  $\$1=\text{THB}30$ 、 $\$1=\text{¥}120$ 、のとき 1 バーツは何円か？ ⇒解答〔 4 〕  
問 10.  $\$1=\text{THB}40$ 、 $\$1=\text{¥}120$ 、のとき 1 バーツは何円か？ ⇒解答〔 3 〕

**設問 C** 以下の文が正しければ 1 を、間違いならば 2 を解答しなさい。

- 問 11. 国際収支統計はストック（残高）統計である。⇒解答〔 2 〕  
問 12. 「居住者」は「いじゅうしゃ」と読む。⇒解答〔 2 〕  
問 13. アメリカ企業の日本支店は、日本の居住者である。⇒解答〔 1 〕  
問 14. 日本の中国への輸出は、中国にとっては日本からの輸入である。⇒解答〔 1 〕  
問 15. 国際収支統計は、経営収支、資本移転等収支、金融収支で構成されている。⇒解答〔 2 〕  
問 16. 国際間の決済には、大きく分けて並為替と逆為替がある。⇒解答〔 1 〕  
問 17. 並為替とは、国際間での支払いの方向と、為替手形・小切手が流れる方向が逆であるものをいう。⇒解答〔 2 〕  
問 18. 並為替は、取立為替ともいい、逆為替は、送金為替ともいう。⇒解答〔 2 〕  
問 19. 銀行の間での国際的な支払いは、主に銀行同士で開設している預金口座が使われる。その際、支払う通貨の母国に所在する銀行に開設されている口座が、使われる。⇒解答〔 1 〕  
問 20. 直接投資とは、企業が外国に直接、拠点を置いて、グローバルなビジネス展開をすることである。⇒解答〔 1 〕  
問 21. 直接投資は、国際収支統計では金融収支に記録される。⇒解答〔 1 〕  
問 22. 直接投資の結果の収益（所得）の国際的な受払い（受取りと支払い）は、金融収支に記録される。⇒解答〔 2 〕  
問 23. 日本の企業が外国に支店・支社を作った場合は、日本の国際収支統計では、対内直接投資ということになる。⇒解答〔 2 〕  
問 24. 為替市場介入とは、民間銀行同士の為替取引に、中央銀行が割って入り、両者の取引レートを命令することである。⇒解答〔 2 〕  
問 25. 外貨準備を増やす原因の一つは、中央銀行による為替市場での外貨買い・自国貨売りの介入

である。⇒解答〔 1 〕

問 26. 中央銀行が為替市場で、外貨買い・自国貨売りの介入をする理由は、民間での取引で外貨高・自国貨安が著しくて、それにブレーキをかけたいからである。⇒解答〔 2 〕

問 27. 購買力平価とは、同種の財について、外国と自国の物価を等しくする為替レートのことである。⇒解答〔 1 〕

問 28. ある財の値段がアメリカで 10 ドル、同じ財が日本で 1400 円とする。この場合、購買力平価は、両者をイコールで結んで、 $\$10 = ¥1400$ 、つまり、 $\$1 = ¥140$  である。⇒解答〔 1 〕

**設問 D** 以下の価格の例から、購買力平価を求め、〔 〕に入る数値を解答しなさい。

問 29. 同一の財の価格が、アメリカで 2 ドル、中国で 10 元。購買力平価は、 $\$1 = \text{RMB}$ 〔 5 〕。

問 30. 同一の財の価格が、アメリカで 5 ドル、中国で 35 元。購買力平価は、 $\$1 = \text{RMB}$ 〔 7 〕。

**設問 E** 以下の文が、あくまで理論的な説明として、正しければ 1 を、間違いならば 2 を解答しなさい。

問 31. 円安は、日本の輸入物価を安くするので、デフレの要因であるといえる。⇒解答〔 2 〕

問 32. 円安は、外国の財の日本への輸入数量を減らす要因となる。⇒解答〔 1 〕

問 33. 日本の輸出先の国の景気が良くて経済成長が続いているならば、その国への輸出は増える。  
⇒解答〔 1 〕

問 34. 日本の景気が良くて経済成長が続いているならば、日本の輸入は減る。⇒解答〔 2 〕

問 35. 円高は、日本の輸出数量を減らす要因となりうる。⇒解答〔 1 〕

問 36. 貿易収支は、輸出総額マイナス輸入総額である。⇒解答〔 1 〕

問 37. 輸出総額は、各財の輸出価格×その財の輸出数量をすべて合計したものであり、輸入総額は、各財の輸入価格×その財の輸入数量をすべて合計したものである。⇒解答〔 1 〕

問 38. たとえば、 $\$1 = ¥100$  が  $\$1 = ¥200$  という具合に円安になれば、1 ドルの財が 100 円で輸入されていたものが、半額の 50 円で輸入できることとなる。⇒解答〔 2 〕

問 39. 円安になって、各財の輸入数量が減ったとしても、各財の輸入価格がそれを相殺するほど上昇していれば、輸入総額はかえって増えることもありえる。⇒解答〔 1 〕

問 40. 円安は、日本へのインバウンドツーリズムを増やす要因となる。⇒解答〔 1 〕

氏名：	学籍番号：	評点（学生記入不可）
-----	-------	------------